

都立 第五福竜丸展示館ニュース

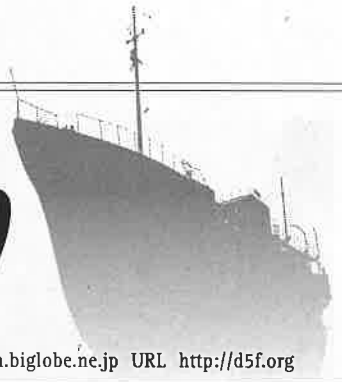
2009.01.01
No.349

(1・2月合併号)

福竜丸だより

発行：財団法人 第五福竜丸平和協会 連絡所：東京都江東区夢の島3-2 〒136-0081 第五福竜丸展示館内

Tel.03-3521-8494 Fax.03-3521-2900 E-mail:fukuryumaru@msa.biglobe.ne.jp URL http://d5f.org



第五福竜丸展示館外観(右) 来館して説明を聞く生徒たち。真剣なまなざしにガイドも熱が入る。(左)



ビキニ水爆実験被災55年 核兵器のない未来へむけて

財団法人第五福竜丸平和協会会長 川崎昭一郎

明けましておめでとうござ
います。

ビキニ水爆実験被災から
五五年目を迎えました。

第五福竜丸は一九七六年
に展示館に収納されたのち、
一九八五年から八六年にか
けて一年以上にわたる船体の
全面的改修工事が行われ、つ
いで一九九八年に船体の修理
が行われました。その修理か
らずで一〇年が経過してお
り、昨年暮には、当協会内外
の専門家にお集まりいただ
き、第五福竜丸船体等保存検
討委員会を開催し、船体の外
側から、また内部にも立ち入
り、目視によるチェックを行
いました。エンジンについて
も視察しました。

第五福竜丸の維持・保存に
万全を期していくために、本
年から同委員会の活動を本格
化させたいと考えておりま
す。

開館三〇周年を記念して行
ったコンサートが好評だった
ので、本年も五月に第五福竜
丸展示館内でのコンサートを
予定しております。

最近の来館者を見ている
と、社会学習・平和学習で来
られる児童・生徒・学生にと
どまらず、職場・地域グルー
プ、中高年グループ、研究者、
専門家、海外からの訪問者な
ど、実に多彩で、当展示館に
求めるものも多様になってい
ると痛感しています。

昨年一二月一日より新しい
公益法人制度が施行されまし
た。私ども財団は特例民法法
人となり、本年中には公益財
団法人に移行する予定です。
これまで以上に自立的な運営
が求められることになりま
す。

皆様の変わらぬご支援、ご
鞭撻をお願い申し上げます。

ビキニ水爆被災から五五年 元第五福竜丸乗組員

大石又七さんに聞く

聞き手 長沼士朗



大石さんは生徒達に体験を話す 年間 20～30 回は

長沼（以下◆）大石さん、今年第五福竜丸がビキニ環礁近くでアメリカの水爆実験により被災してから五五年になります、率直に今どんなお気持ちでしょうか。

口から云わせれば、隠されてしまった事件だという感じが強いですね。

そのため世の中の動きがゆがんでしまい、核兵器が大量に作られる恐ろしい世界になってしまった。近ごろ世の中が危険だと感じれば感じるほど、この事件のことをもう一度思い出すことが大事だと思います。

っています。

◆昨年は、元乗組員の方が亡くなったようですが。

大石 ええ、半田四郎さんと増田鏡之介さんのお二人です。特に半田さんとは気の合った仲間でした。手遅れのガンだったと聞きとても残念な気持ちです。

◆これで乗組員二三人のうち一四人の方が亡くなったことになりましたね。

大石 そうです。半数以上になり、ほとんどがガンで亡くなりました。

私たちは事件後も被爆者として認められず、何か災いを持ち込んだ人間のように見られた者も少なくない、それだけに亡くなった仲間は、皆口には出さないと口惜しい思いをして死んでいったと思います。

私たちは間違いなくビキニ事件の被爆者であり、その意味では事件は未解決だと思っています。

◆大石さんはここ一〇年以上全国に出かけて、中学生や高校生を中心に多くの人たちにビキニ事件のことを語り伝える活動をしておられますが、

特に若い人たちに對してはどんなことをお感じでしょう。

大石 ビキニ事件は学校ではあまり教えられず、知らないことなので、話す子どもたちは非常に驚きます。

子どもたちに、核兵器が、放射能という目に見えない恐ろしいものを大量に作り出し、広範囲にまき散らす兵器だということを伝えたいのです。これは絶対に無くさなくてはいけないですね。

話をした後には感想文を書いてもらうのですが、それを読むと話した内容がきちっと伝わっていることがよく分かります。政治家にも見せたいようなものが沢山あります。

日本は過去にあれだけの戦争をし、悲惨な経験をしたのに、今また戦争の支度をしているように私は感じています。

やはり戦争を体験した人が、今その恐ろしさを耳にタコができるくらいいわなくてはいけない、そうしないと子どもたちは何も知らないまま大人になってしまふことになりますからね。教育の中で、そういうことを教えてほしい

と思います。

◆昨年は第五福竜丸の保存がよびかけられて四〇年でした。展示館の活動については何かご意見がございましたか。

大石 そうですね。事件後半世紀を生きて何が大切か分かるようになり、やはり福竜丸が残されたことにより、その訴える力がいかに大きいかということに改めて教えられました。

これからも何十年、何百年とこの船が残り、事件を伝えるだけでなく、人間社会の善悪を伝えていってほしいと思います。

◆最後に、大石さんの今年の抱負をお聞かせ下さい。

大石 おかげ様でどうにか健康なので、今年も病気をしないで、これまでのように事件のことを少しでも若い人たちに伝えていければと思っています。

◆ぜひ健康に気をつけて、活動を続けていただきたいと思っています。（ながめましよう／第五福竜丸平和協会賛助会員、マグロ塚の会）

こんなに活用されています！ 第五福竜丸展示館

昨年の特別展の関連企画で、展示館の活用状況をレポートするため、団体見学数や教科書での扱いなどを調べました。そこから、「多様に活用されている」という実態が見えてきました。一方で来館者アンケートなどでは、「事件は知っていたが、展示館があることは知らなかった」という人が半数を占めています。このような現状から、今後のとりくみを考えてみました。

多様に表現される福竜丸

ここ数年、保育園や小学校

の学芸会などで、第五福竜丸が劇の題材となっています。

いずれも絵本『わすれないで』（赤坂三好・作）『ここが家だ』（ベン・シャーン絵）『サービナード構成・文』などが下敷きにされており、映画『第五福竜丸』（新藤兼人監督）のDVD化による普及などの影響も大きいと考えられます。これらの作品は展示館のショップでも販売しており、協会のホームページでも紹介しています。また見学した学校が「まとめ学習」で劇を演じることもあるようです（新潟県・上越市）。八月の長崎では、校内平和集会で歌と

朗読の構成劇を披露しました（平戸市）。

現代舞踏グループによる表現追求のワークショップ、演劇集団のテント芝居、東京高輪協のサークルによる朗読劇、神奈川県藤沢市民のミュージカルなど、その表現も多様化しています。

団体見学との交流

ここ五、六年の来館者数は一万〜一三万人を推移しています。総じて小学校の来館数は減少しています。とりわけ都内の小学校が一一九校（〇一年）から七三校（〇六年）まで減っているのは残念なことですが、山梨県から修学旅行で訪れる学校が増えてき

ています。また中学校では三重県、和歌山県からコンスタントに三〇〜四〇校来ています。ホームページでもガイドの実施をアピールしており、旅行者への情報提供、実地踏査の教師との交流など、ボランティアスタッフのおかげだと感じています。

高校生は夏休みの課題で来館する学校も増えています。大学では、協会関係者引率のゼミ、研究会（静岡、中央、明治学院、東京海洋）、授業（恵泉女学園）など、学生の活用もあります。

自治体主催の平和学習も増えてきており、高校生・青年を対象にした活動（東京都港区、長崎市など）や、近隣県からのバスツアー（神奈川県大和市、藤沢市など）にも対応しています。生協の親子企画、学習塾のフィールドワークのほか、生涯学習サークル（俳句、ハイキング、歴史探訪、写真）、平和運動など多様な団体の来館があります。

出版物・メディアへの登場

特別展・イベントのたびに、新聞、テレビ、ラジオに情報

提供を行い、メディアへの登場は増えています。報道のほか散歩番組（「ぶらり途中下車の旅」〇六年、「東京ウォーキングマップ」〇八年）、

FM（J-WAVE）などへも「出演」しました。ガイドブック（「るるぶ」「おはなし東京の歴史」「東京の戦争と平和を歩く」など）では学習できる観光スポットとして取上げられたほか、木造船としての価値も評価されてきています（「歴史群像―特集・日本の記念船」、帆船海王丸クラブ機関紙「紺青」。地元江東区では、ケーブルテレビ、タウン誌でボランティアの会が紹介されたのもあらたな広がりです。

教科書では、中学・高校の歴史教科書の大分で「ビキニ事件」が取上げられ、コラム等で写真入りで現在の展示館が紹介されているもの、この一〇年を比較すると記述の分量は減ってきています。小学校教科書も本文での記述がほぼなくなったのは残念です。一方学習参考書では「試験によく出る」とのマークもあり、歴史雑誌（「昭和タイ

ムズ」「ビジュアル日本の歴史」など）でも紙面を割いて紹介されています。

ていねいな人間関係を

近年都内には「エコ」や「科学」をテーマにした施設が増え、校外学習の訪問先も多様化してきました。生徒数の減少やカリキュラムの変更などもあり、学校見学が減ることへの対策も重要です。

一方で来館者との交流は深まっているように感じます。見学校から届く感想文に担当したガイドが返事を出して交流したり、講演依頼がくるなど、丁寧な人間関係が構築できていることを実感します。ブログ（インターネット上の日記）でも、さまざまな人が展示館のことを紹介してくるようになりました。日常的な対応の積み重ねが、ファンを増やしていくのだと思います。「小さな博物館」ですが、展示・ガイドの多言語化やワークショップの開催、来館者が参加できる展示の工夫など、多彩な「入口」を準備していきたいと思えます。（市田真理／展示館学芸員）

協会設立35周年の祝賀会開く たくさんの人の力、平和への願い に支えられて

昨年十一月二十九日、財団法人第五福竜丸平和協会は、設立三五周年の記念祝賀会を学士会館で開きました。会には第五福竜丸に関わりの深い団体、個人、賛助会員など一〇〇名が集いました。

会は、川崎昭一郎会長の挨拶で開会し、坂野直子理事の司会で進行、来賓からの祝辞、東京地婦連の端山純子環境部長による乾杯（写真）につづ



き和やかに懇談しました。

会の後半では、スライド「ビキニ被災五〇年から協会設立三五年へ」と音楽映像「ラックードラゴンクインテット」が上映され、さらに船の保存運動やエンジン展示、展示館でのイベントなどゆかりの方がたの挨拶、協会の藤田秀雄副会長の閉会の言葉で終了しました。

祝賀会には東京都東部公園緑地事務所長、広島・長崎・焼津市長からメッセージが寄せられ披露されました。

平和の水先案内人

挨拶の最初は、日本原水爆被害者団体協議会の山本英典事務局次長（原爆症認定訴訟原告団長）、被爆者が第五福竜丸エンジンの運動と「お花見平和のつどい」を市民団体とともに取り組み、協会と深い関係にある。そのなかで印

象深い名言が残されたとして、青島都知事の「世界にむかつて核兵器廃絶のメッセージを伝達し広げる出発点に」、地婦連・田中里子さんの「核兵器廃絶のエンジンに」、東友会の田川時彦会長の「行方不明の息子が帰ってきたようだ」と被爆者たちは感じる」の言葉を紹介。協会は平和の願いを導く水先案内人に、と期待を述べました。

平和博物館どうしの協働を

立命館大学国際平和ミュージアムの高杉巴彦館長は、展示館が核兵器廃絶に関する展示・普及・教育研究活動を広範な市民の行動とパワーを基盤として展開、同じ平和展示施設として敬意を表する。先の国際平和博物館会議の平和ミュージアム国際ネットワーク総会で、アジア・太平洋地域ネットワークの立ち上げが決められた。中国・韓国などの関連博物館、協会とも連携しマニラル諸島の平和博物館、中部太平洋の被害実態に関する調査などに一緒に取り組みたいとのべました。

東京大空襲・戦災資料セン

第五福竜丸平和協会

川崎昭一郎会長の挨拶（要旨）

三五年前の十一月二十八日

に財団法人第五福竜丸保存平和協会の設立が許可されました。中野好夫、美濃部亮吉、三宅泰雄など識者による「被爆の証人 第五福竜丸保存の訴え」が発表されてから四年のち、都立第五福竜丸展示館の開館に先立つ三年前でした。協会の寄附行為は、「昭和29年3月1日、ビキニ水爆実験の被災船第五福竜丸を記念し、原水爆被害の諸資料を収集・保管・展示することにより、都民の核兵器禁止、平和思想の育成に貢献する」とそ

の目的を述べています。

以来、都からの業務委託をつづけ、ビキニ事件五〇周年の記念事業の展開をはじめ、様々な分野の方々の参加協力、多くのイベント、出版物の刊行、メディアでの紹介も増え、また海外からも多彩な来館者を迎えております。

歴代東京都知事と担当部局の方々を始め、願いを同じくする団体、個人のみならず、心より感謝申し上げます。協会として力をあわせ、創意工夫を重ねて平和の重要性を訴えていく所存です。

ターの早乙女勝元館長は、展示館と戦災資料センターが同じ江東区内にあり、ともに命と平和の尊さを後世代に伝えていく使命をもつとのべ、センターの参観者の大半である小学生から大学生、修学旅行生などが、第五福竜丸展示館にも足を運んでいるのではな

いか、展示館と手を携えて、

戦争・空襲・核の恐ろしさ、命の尊さを感動的に語り伝え、平和の力を結び合ってきたいと抱負を語りました。

市民団体のとりくみから

東京都生協連の生原勇組織課長は、福竜丸が東京にあることは、平和のメッセー（5めんにつづく）



ジを伝えるうえで大切なこと、生協はNPT準備委員会へむけて署名運動をすすめ平和市長会議提唱の核兵器廃絶「2020ビジョン」に賛同していること、市民団体と協会との協力をさらにすすめていと語りました。

主婦連合会の兵頭美代子参与は、きょうの会にこれだけ大勢の皆さんが集まり、また展示館に年間一二人が来館することは大切だ、一人ひとりがさらに大きな呼びかけをして、末永く平和のとりくみをして、世界に向けて発信することを祈念するとのべました。

被爆地長崎、原水禁運 動からも

長崎平和推進協会の横瀬昭幸理事長は、こんにちの核兵器をめぐる動き、北朝鮮、インド・パキスタンの情勢をみても、核廃絶というよりは核拡散の方向に向かっていているように感じられる。手に手をとって核廃絶にむけて力を尽くしたいと語りました。

原水爆禁止日本国民会議の浅見清秀前副議長は、都立高校教員だったとき、「原爆を許すまじ」を作曲した先輩教員がおり、原水爆禁止の運動のテーマ曲ともなり、「三度許すまじ」と歌われている。しかし、ビキニ事件のあとにもスリーマイル島やチェルノブイリ原発事故がおこり、今なおイラク、アフガニスタンでは劣化ウラン弾が使われるなど、放射能の被害は世界にひろがっている。核保有国も増えており、なんとしても核兵器、放射能被害をなくしていきたい、とのべました。

原水爆禁止日本協議会の赤松宏一代表理事は、第五福竜丸は、広島・長崎の原爆被

害の実相が隠されているなかで、世界に核兵器の恐ろしさを初めて伝え、原水爆禁止運動の国民的広がりのきっかけをつくった。その運動と世論により核兵器の使用を抑えてきたことは、人類史的に重大事だった、核兵器廃絶の実現にとり今大きな山場にきており、全力をあげ頑張りますよとのべました。

日本母親大会連絡会の木村康子代表委員は、母親大会がビキニ事件をきっかけに生まれたこと、母の愛に訴え、核戦争から子どもたちを守るう、どんな戦争にも反対を訴えて歩み続けてきた。これからも子や孫に平和な日本と世界を手渡せるよう歩みたいと語りました。

第五福竜丸から発信を

第五福竜丸の元乗組員大石又七さんは、第五福竜丸がゴミの中から出てきたときは、正直いやな思いだった。しかしいまは、亡くなって行った仲間の気持もこめて語っている。一介の漁師である自分が、事件のことを調べ学ぶうちにいかに理不尽で政治決着によ

展示館の若い協力者たち



って蓋をされたのがわかってきた。いつしか黙ることをやめ、核兵器の怖さを、世の中が危険な方向に動いている怖さを知ってほしいと、話すことに力を入れるようになった。船が保存され、展示館ができて発言する場を作っていただいたことで、いまは感謝の気持ちだ、と語りました。

船の保存運動にとりくんだたくさんの方がたのなかから、三井周さん（東建徒）は、一九六八年三月二日の新聞報道を見て、船のもとに駆けつけて、「あれから四〇年です」。江東区にいた深井さん若鳥さんと私は「三羽ガラス」と呼

ばれた。もう一人「紅一点」で青木佳子さんがいる。そして「あれが福竜丸だよ」と教えてくれた、都職港湾分会の江藤さん。こうしたメンバーを中心に、今は亡き広田重道さんは運動に火をつけてくれた先輩、教員や区役所の組合やたくさんの人が関わり、大勢の力で実現した、いいもんだったなとあらためて思う。これからの四〇年は若い世代やボランティアメンバーが支え、平和の証人、第五福竜丸を伝えてほしい、と保存運動当時を振り返りながら語りました。

=放送予定のご案内=

NHK・TV「その時歴史は動いた」

ビキニ事件がとりあげられ、第五福竜丸と展示館が登場します

■ 2月18日(水) 午後10時より

岡本太郎「明日の神話」 渋谷に展示



甲板上の「明日の神話」の原画

敏子さん「明日の神話」を語る

…真ん中にガイコツが燃え上がってるでしょ。原爆のキノコ雲がニョキニョキ。右の下の方に船が描いてあるでしょ。あれが第五福竜丸でマグロを引っ張ってるの。

原爆の絵なんですけど、決して悲惨さや残酷さを描いていない。原爆は本当に凶悪な力ですよ。でもね、それに負けてしまったら人類なんてもういないし、これからもダメでしょ。原爆の炸裂はすごいけれども、岡本太郎のガイコツはばらばらになりながら美しく燃え上がってる。原爆は凶悪なエネルギーだけれど、人間はもっと大きな力で原爆に立ち向かうんだよ。その瞬間に明日の神話が生まれるんだ、ということなのね(2004年4月3日「岡本太郎『明日の神話』と第五福竜丸展」のオープニング講演より)。

岡本太郎さんの大壁画「明日の神話」がJRと京王井の頭線渋谷駅の連絡通路に展示され、2008年11月に公開されました。

この作品は、ビキニ水爆実験の被災に衝撃を受けて制作された1955年の「燃える人」につづく原水爆の炸裂をテーマに1968年にメキシコで制作されたものです。作品は完成後、発注主の死亡と倒産により公開されることなく行方不

明となり、岡本太郎記念館館長の岡本敏子さんが探し出して2005年に日本に運ばれ、修復がなされました。

第五福竜丸展示館では、敏子さんの協力により2004年4月に「明日の神話」の原画の展示が甲板におこなわれ、オープニングでは、この作品と太郎さんについて敏子さんが講演されました。(上の写真は展示館で「明日の神話」を語る敏子さん)

市民講座 3・1 ビキニ記念のつどい

講演テーマ **久保山さんはなぜ死んだ**
解剖所見から見えてくるもの～乗組員の健康について
お話 間間 元医師 (第五福竜丸元乗組員の健康調査をおこないC型肝炎感染を発見した医師、被爆医療にもたずさわる)
◆日時 2月22日(日) 午後2時～4時
◆場所 日本教育会館 8F (地下鉄神保町駅より)
参加費 700円

3・1 ビキニデー記念・展示館ガイドツアー

◆3月1日(日) 午後1時と3時に第五福竜丸を見学しながらビキニ事件についてガイドします。参加自由・入館無料

ビキニ水爆被災55年 記念コンサートのお知らせ

～福竜丸船体に響くしらべをご一緒に～
林光さんを迎えて、第五福竜丸のテーマ「ラッキードラゴン・クイントット」の演奏会 ピアノ・寺嶋陸也+日フィル弦楽四重奏団
◆日時 5月16日(土) 4時30分開演
◆ところ 第五福竜丸展示館
賛助会員優先予約受付 3月1日より
電話 03-3521-8494 FAX 03-3521-2900
限定100席 全席指定 3000円